

1 デジタルトランスフォーメーション経営

著者 レイヤーズ・コンサルティング 編著
出版社 ダイヤモンド社

デジタル技術の急速な進歩によってその申し子のような新しいビジネスが生まれています。一方で既存のビジネスでのデジタルへの取り組みは充分とは言えません。

30代半ばで初めてパソコンに触れたITリテラシーが決して高いとは言えない私のような世代にはなかなかシンドイことですが、生産性を高め働き方改革を進める上では経営者が意を決して「デジタルトランスフォーメーション」と向き合わなければならないと教えてくれた一冊です。

〔新田 八朗〕

2 道は開ける

著者 D. カーネギー
出版社 創元社

『人を動かす』と並ぶ著者の二大名著の一つで、悩みがある方や行き詰まりを感じている方に特にお勧めします。本書は一般的な自己啓発本と異なり、効果が実証されている方法論を紹介し、更に問題解決に至った成功者の具体例まで記載されていることから、腑に落ちる素晴らしい内容になっています。

〔麦野 英順〕

3 生産性

著者 伊賀 泰代
出版社 ダイヤモンド社

これからの日本は人口減少に伴い40年後の労働人口は現在の8,000万人から4,000万人まで減少すると予想されています。その中で今後とも現在の成果を維持発展させるには生産性を向上させるしかないのではないかと考えます。そのような観点から本書のタイトルが気になり手に取りました。

生産性と言えば製造現場における概念が定着していますが、本書は特に非製造部門の革新と生産性の関係及び組織の生産性を高めるための人財育成の方法等の課題についても述べています。

企業を牽引する立場の者として、リーダーシップを発揮し、保有する資源である人材や組織力を最大限に活性化するための指針として本書をご一読賜れば幸いです。

〔塩井 保彦〕

4 百朝集

著者 安岡 正篤
出版社 福村出版

林芳正参議院議員と話をしているときにこの本の話題になり、改めて読み返したが、人としての真理を明快に説く内容は時代を超え役に立つ。座右の書となる一冊だ。

ちなみに林氏は心ある人にこの本をいつもプレゼントしているとの事。

〔牧田 和樹〕

5 光の人

著者 今井 彰
出版社 文藝春秋

太平洋戦争当時、東京大空襲などによって、多くの戦災孤児がうまれました。戦後の混乱のなか国の支援もなく、両親も家も失った孤児たちは、ある者はなすべもなく命を失い、またある者は生きるために悪の道を受け入れざるをえませんでした。

その孤児たちに手を差し伸べたのが、本作『光の人』の主人公、門馬幸太郎です。二十代の若き門馬は教師の職を投げ打ち、収入の見通しもないまま、孤児たちとの共同生活を始めます。

実は、この小説には実在のモデルがいます。NHK「プロジェクトX」のプロデューサーだった著者の今井彰さんは、パーソナリティをつとめるラジオ番組でこの人物に出会いました。その生き方に心を打たれた今井さんは以来、取材を重ね資料を集め、書き下ろし小説として、彼の人生を結実させたのです。

食糧難から親の虐待へ。孤児たちが味わう苦しみの様相は時代とともに変わりますが、門馬は公的な支援がないまま、その一切から逃げることなく、戦後1,000人の孤児を育てました。その背景には、門馬自身の悲惨過ぎる戦争体験がありました。

こんな素晴らしい男が日本にいたのか。そんな圧倒的な感動と衝撃に言葉を失います。読めば絶対に泣けてしまう、心を揺さぶる感動巨編の誕生です。

(文藝春秋の作品紹介から引用。とにかく読んでほしい一冊)

〔若林 忠嗣〕

6 運命を拓く

著者 中村 天風
出版社 講談社

大リーガーの大谷翔平の愛読書として、最近雑誌でも紹介された本。
松下電器の松下幸之助氏、京セラの稲盛和夫氏、日本電産の永守重信氏といった日本を代表する経済人も中村天風氏に学び、影響を受けている。
その中村天風氏が人生哲学について瞑想録という形で表した著書。
中村天風氏は、自身の思想を心身統一法という実践的な方法にまとめあげており、この世の中で、人が人として生きていく上で、多くの学びを得ることができる。
〔板谷 聡〕

7 失敗の本質

著者 野中 郁次郎 他
出版社 中公文庫

野中先生とは、北陸先端大にいらっしゃった約20年前からお付き合いをさせていただいています。ナレッジマネジメントの世界的権威として、ご活躍されています。
〔稲垣 晴彦〕

8 雑草に学ぶ「ルデラル」な生き方

著者 稲垣 栄洋
出版社 亜紀書房

ルデラルとは、荒地など厳しい環境に生息する植物のこと。つまり雑草。
作者は、ルデラルという言葉が植物の戦略の一つと位置づけて、あとがきに「したかに逆境を味方につけ、ひたむきに困難に立ち向かうルデラルの姿に私たちは勇気づけられる。困難にぶちあたったとき、生き方に悩んだとき、ルデラルの生き方は私たちに知恵を授けてくれる。」と記しており、なるほどと思う一冊です。
〔井上 孝〕

9 心に響く小さな5つの物語

著者 藤尾 秀昭
出版社 致知出版社

子供から大人の方迄、簡単な文章で心に響く名言が有りますので推薦いたします。
〔松田 登〕

10 イノベーションと企業家精神 ドラッカー名著集5

著者 P. E. ドラッカー 上田惇生 訳
出版社 ダイアモンド社

企業家として成功する人は価値を創造し社会に貢献する。ドラッカーは決して新しいではない。しかし変わらない考え方、哲学といえる。そしてこの本は実践の書であるが、ハウトゥーではない。
難しいがとてもおもしろい。
〔吉岡 隆一郎〕

11 ビジナリー・カンパニー2 飛躍の法則

著者 ジェームズ・C・コリンズ
出版社 日経BP社

GOODからGREATへ。GOODはGREATの敵である。
この本の前に出された「ビジナリー・カンパニー」は最初からGREATな会社を取り上げている。しかしたいていの会社はそうではない。どうすればGREATになれるかという本が本著である。
誰をチームのバスに乗せるかを定める。
最初に人を選びそのあと目標を定める。
なかなかすばらしい本だと思います。
〔吉岡 隆一郎〕

12 生きてる会社 死んでる会社

著者 遠藤 功
出版社 東洋経済新報社

私達は会社を「生きてる会社」にしなければならない。
それは会社全体が大きな熱を帯び、理詰で考え、行動し、新たな創造に向かって社員たちの心が奮い立っている、「生きてる会社」とは、そういう会社だ。
それに必要なのは新陳代謝である。
代謝なくして創造はない。
そして生きてる会社になるには人間性を取り戻すことだという。デジタル時代に勝ち残る会社は実はアナログな会社であり心を大事にする会社。人間臭くて、泥臭くて、表情豊かな人間丸出しの会社が勝ち残るといふ。
死んでる会社にしたくはない。

〔吉岡 隆一郎〕

13 武士道

著者 新渡戸 稲造（岬 龍一郎 訳）
出版社 PHP研究所

かつてはエコノミック・アニマルと侮蔑されたこともある。
では今日はどうか。政治、経済欺瞞が横行している。
礼節を重んじ、武士道精神を知る日本人になるべきである。
拗って立つべき日本の精神は、武士道精神であるべきであると思います。

〔荒井 進〕

14 国家と教養

著者 藤原 正彦
出版社 新潮社

教養を身につける重要性、それを過去の歴史を紐解きながら解説されている。また、現在のインターネットによる情報収集だけでしか生きていない年代に対して、読書の重要性や、日本に昔からある文化や文芸における情緒の醸成、そして、卑怯を憎む心、弱い者への思いやり、親孝行、勇気、祖国への愛、自己犠牲などの尊さなど、独特な書き方や、自分の経験も交えながら書かれている。
是非、若い間に読んでもらいたいと思います。

〔上田 信和〕

15 調理場という戦場

著者 斉須 政雄
出版社 幻冬舎

働く上での心構えや挑戦することの大切さを学んだ本です。
料理に携わっていない方にもおすすめです。

〔大谷 治郎〕

16 ザ・ドリーム・マネジャー

著者 マシュー・ケリー
出版社 海と月社

仕事の目標が言えてもプライベートな夢を語れない社員に対して、経営者が今一度一人一人のモチベーションアップに取り組むきっかけになる一冊。
若い世代だけでなく、50代シンドロームの世代へも、年齢問わず熱く語ることが出来ます。

〔小川 忍〕

17 エネルギー産業の2050年 Utility3.0へのゲームチェンジ

著者 竹内純子 編著 伊藤剛、岡本浩、戸田直樹 著
出版社 日本経済新聞出版社

『本書はまず、2050年のある一家が迎えた朝を描きました。前半に登場する家族は、今後の「エネルギーの選択」がうまくいったおかげで近未来ムービーにでも出てきそうな便利で豊かな生活を送っています。しかし後半の家族は「エネルギーの選択」が失敗に終わった、あるいは、過去の延長で何とかなんと私たちが判断を先送りし続けた結果、惨憺たる状況に置かれています。(中略)分岐点に立つ今、「とりあえず現状維持」も「未来は未来が解決する」も等しく無責任です。選択肢は私たちの前にあります。(以下省略)』と本書のまえがきにあります。明るい未来を遺すための「エネルギーの選択」。明るい未来を遺すために私たちは何をすべきなのかを著者は問いかけています。

〔小澤 敏夫〕

18 社会心理学講義

著者 小坂井 敏晶
出版社 筑摩書房

組織経営の中で、「他人事」→「自分事化」による自発力、責任感の醸成は大切なポイントの一つとされています。

しかしながら多くの人間に責任が分散される事が一人一人の倫理観を欠如させる事態を起こし得る(例えばホロコースト)ことをはじめ、様々な「人間の行動原理」を突き詰めた、目からウロコの書であります。

〔斉藤 伸一〕

19 落日燃ゆ

著者 城山 三郎
出版社 新潮社

極東国際軍事裁判でA級戦犯となり、文官で唯一死刑判決を受けた元首相広田弘毅の生涯を描いた小説。

広田は、政府・軍部が軍国主義に傾斜する中、自分自身で情報を入手。単なる反戦だけでなく、敗戦可能性が極めて高いことや敗戦時の影響についても、的確に分析。自ら開戦回避に動く。

経営者として「自分の目で見て判断する」「判断したら行動する」ことの重要性を認識出来る一冊。

最後は絞首刑という運命を受け入れるのですが、一切、他人に責任転嫁せず、凛としている姿は美しい。

〔佐藤 隆史〕

20 世界史を変えた薬

著者 佐藤 健太郎
出版社 講談社

タイトルのとおり、創薬の歴史の中で、特に人類に貢献したビタミンC、キニーネ、モルヒネ、ペニシリン、アスピリン等10種類の薬を解説した一般読者向けの本。その誕生した時代や開発されたきっかけ等がそれぞれ紹介され、個人の命運のみならず国家の盛衰、人類の運命すらも変えてきたこれらの薬の生い立ちは興味深く、読み物としても十分に楽しめる歴史本です。初版から3年が経っていますが、「薬都」富山県民の皆様には是非一読をお薦めします。

〔滝野 弘二〕

21 楽園のカンヴァス

著者 原田 マハ
出版社 新潮社

平成30年度の海外経済視察(ニューヨーク)に参加するきっかけとなりました。近年『世界のエリートはなぜ「美意識」を鍛えるのか?経営における「アート」と「サイエンス』』という本も話題になりましたが、論理的に「正解」と思っても、VUCA(不安定、不確実、複雑、あいまい)という風に表現される現代社会では、すぐに「不正解」となってしまうことも考えられます。

そういうことに左右されない自分の軸をもつという意味で、絵画の背景を考察したり歴史に思いをはせたりすることは、異なる角度でものごとを見る視座を与えてくれるような気がします。

〔武内 孝憲〕

22 経営者の条件

著者 ピーター・ドラッカー
出版社 ダイヤモンド社

マネジメントの父と呼ばれるピーター・ドラッカーの不朽の名著であり、マネジメントの入門書として経営者に必須な書と言っても過言ではない。

成果を上げる為にいかなる行動をとるべきか、どんな習慣を身につける必要があるかがよく分かる。何度読んでもその時々置かれた状況によって様々な気づきを与えてくれる。

経営者のみならず、会社の幹部にも読ませたい本。

〔田中 由紀夫〕

23 知的機動力の本質

著者 野中 郁次郎
出版社 中央公論新社

アメリカ海兵隊の組織・行動を研究・分析したもので『知的機動力』なるものを提示している。進化しつづける組織をつくるためには、組織のリーダー・メンバー含め「相互主観」を築きあげることが大切であるということ、そのためには、組織の存在意義・使命は何かを徹底的に議論・共有する必要があること、その上で、自発的なやる気を喚起するには、目的やビジョンの共有が不可欠であること、「暗黙知」の共有が欠かせないことなど、機動力に必要な要素が書かれている。また、実践的賢慮リーダーに必要な6つの能力も参考になる。

〔谷川 正人〕

24 琥珀の夢

著者 伊集院 静
出版社 集英社

実話なのでおもしろい。

〔塚本 昭一〕

25 成功の情熱 - PASSION -

著者 稲盛 和夫
出版社 PHP研究所

氏の創業のベースは「人間として正しいことを追求すること」であり、人間としての行動規範、モラルができるだけ平易に表現されている。

〔中川 雅弘〕

26 人間の格

著者 芳村 思風
出版社 致知出版社

人として経営者、リーダーとしてあるべき姿が書かれています。

〔西坂 正行〕

27 国家の品格

著者 藤原 正彦
出版社 新潮社

すべての日本人に誇りと自信を与える画期的「日本人論」である。10年以上前に発刊され話題になった書籍であるが、現在の日本人論を理解するうえでも色褪せない核心を突いた名著である。

特に武士道精神の復活について著者は言及する。

「人間にとっての座標軸は道徳⇒武士道は日本人の行動基準・道徳基準として機能してきた⇒この中には慈愛・誠実・忍耐・正義・勇氣・惻隱(弱者・敗者への思いやり)などが盛り込まれている。これに加えて名誉・恥の意識がある。」

国家の品格の喪失⇒繁栄の代償に失った国家の品格⇒世界を救うのは日本人⇒一人一人が美しい情緒と形を身につけ、品格ある国家を保つことは日本人として生まれた真の意味であり、人類への責務と思う。

〔堀田 正之〕

28 憂鬱でなければ、仕事じゃない

著者 見城 徹、藤田 晋
出版社 講談社

この本程僕が共感した本はない。また、鼓舞してくれた本もない。還暦過ぎとなつてなお新しい血を得た思い。

〔松井 秀太郎〕

29 男の作法

著者 池波 正太郎
出版社 新潮社

素晴らしい経営者の先輩方がたくさんおられるこの富山で見習うべく手にして感銘を受けた本です。同世代の会員の方に読んで頂きたい本です。

〔源 和之〕

30 成功の教科書

著者 原田 隆史
出版社 小学館

私が起業したばかりの頃、事業は軌道に乗らず、毎日仕事がないことへの不安で押しつぶされそうになっていました。そんな折、この本に出会いました。著者の原田隆史さんは中学の陸上部を全国屈指の強豪校に育て上げた教育者です。

この本がきっかけとなり、自社の具体的な目標、長期でビジネスモデルを考えることができるようになり、自分の進む道が明確になり、徐々に仕事も軌道に乗り始めました。

経営者になると、不安や重圧から孤独感を抱きがちですが、マクロで考えた上で、では現在何をするのが最善かを決定する、目標を具体化することで、自分のビジネスにも自信が付き始め、積極的に他の経営者の話も聞けるようになり、「経営者」を楽しめるようになりました。

この本は、まさに私の教科書なのです。

〔村上 宏康〕